

# 1. 評価報告概要表

作成日 平成21年3月2日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1195700024
法人名	株式会社 サントラベル福祉事業部
事業所名	グループホーム平野ひので
所在地	〒349-0136 埼玉県蓮田市大字上平野1944-5 (電話) 048-766-3050

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成21年2月23日

【情報提供票より】(平成21年2月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成20年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 3人, 非常勤 10人, 常勤換算 5人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	1階建ての1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 300,000円 )	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日あたり 1,500円			

### (4) 利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	8 名	男性	5 名	女性	3 名
要介護1	4 名	要介護2	3 名		
要介護3	0 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 78.2 歳	最低	66 歳	最高	86 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	蓮田病院、一之瀬歯科医院
---------	--------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、地域に開かれた施設を目指して昨年4月に開設したグループホームである。県道から50mほど入った静かな住宅地にあり、広いリビングは畑に面していて四季の移り変わりが楽しめる。ホールのテーブルの上では鑑賞魚を飼い、世話をしたり癒しともなっている。ホームの行事である納涼祭やクリスマス、バーベキューやそーめんパーティー、お茶会等には地域の人達を招き、地域との交流も盛んに行われている。職員は自分が大事に思うことは利用者も同じであるという理念から、利用者が入居後も得意なことや好きなことを継続して行えるように支援している。また、リハビリが生活の中で楽しみながら自然に行われ、心身の機能の維持、向上となるように取り組んでおり、利用者が生き生きと穏やかに過ごしているホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回が初めての外部評価である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価項目を職員全員に見てもらい管理者がまとめた。評価項目を見たことにより、日々のケアの取り組みについて見直したり、利用者一人ひとりに合った支援をすることの奥の深さを痛感し、繰り返して学んでいくことの大切さを認識することができた。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>管理者の尽力により、市の協力を得て昨年11月に運営推進会議が設置された。ホームの実情報告によりメンバーの理解を深めることができた。地域包括支援センターの職員からリスクマネジメントに関する助言があり、自治会長からは地域の様々な行事の情報を得られ、21年度の活動の手がかりとすることができた。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>利用者は全員市内の方であることから家族の面会も多く、常に話し合いながらケアに取り組み、信頼関係も構築されており、特に意見や苦情は寄せられていない。今後もホームに入りやすく、何んでも話せる雰囲気づくりに職員全員で取り組んでいく姿勢である。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホームの行事の際には地域の人達を招いている。近所の人達からは野菜をいただいたり、気軽にホームに寄っていただいている。フォークダンスやハンドマッサージなどのボランティアを受け入れているほか、近くの小学校の運動会の見学をしたり、ホームとしても近所の独居高齢者の見守りをするなどの交流をしている。4月には自治会へ加入する運びとなっている。</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の心身の状況と有する能力に応じて自立した生活ができるように、地域との連携を図りながら必要なサービスを提供するという会社の方針を基に、ホーム独自の理念を作り上げ、地域に開かれた施設作りを目指している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務所に理念を掲示し、月1回のミーティングや朝、夕の申し送り時に、具体的な支援の方法について話し合っ共有化を図り、実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩中に挨拶を交わし、地域の人達も気軽にホームに寄りたり、納涼祭やクリスマス、バーベキュー等の行事に招待し喜ばれている。また、近くの独居高齢者の見守りを行い、フォークダンスやハンドマッサージのボランティアを受け入れ、小学校の運動会を見に行くなど盛んに交流している。今後自治会へ加入する予定である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ミーティングで評価の意義について話し合い、評価票を記入する前に職員に見てもらい、意見を取り入れながら管理者がまとめた。記入後も再度職員が見ることで、日常のケアを見直し、利用者支援することの奥の深さを感じ、繰り返し学ぶことの必要性を認識することができた。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者や家族、市及び地域包括支援センター職員、民生委員や自治会長等の構成により、昨年11月の発足に至った。相互の理解を深め、地域包括支援センターからリスクマネジメントの助言や自治会長より地域の行事の情報が得られるなど今後の支援活動の参考になった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生活保護費受給者もあり、介護計画の提出や相談を行っている。また、市の窓口へパンフレットを置いてもらったり、県からの通達文書の分からない部分を教えてもらうなど頻繁に連絡を取り合い連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者は市内の方達であることから家族の面会も多く、面会時に暮らしぶりや健康状態等を細かく報告している。また、金銭の出納帳や領収書も提示して報告している。面会のない場合は、月1回は、利用者の様子や領収書を添付して出納帳のコピーを送付している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会が多いので、話やすい雰囲気づくりに努め、日頃から何でも話し合うようにしている。また、玄関に意見箱を設置するとともに、公的な相談機関を掲示しているが、今のところ意見や苦情などは寄せられていない。今後も家族との信頼関係の構築に努めていくこととしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	昨年4月に開設して以来、異動、離職者はいない。管理者は職員間の和を大切に職場の環境づくりに努め、会社代表も異動による利用者への弊害を理解しており、職員の待遇面で配慮している。今後異動等が生じた場合は、新任者が慣れるまで、日中、夜勤とも1か月～2か月は経験者と2人で勤務に当たる体制を考えている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経歴により、県社会福祉協議会の認知症や感染症に関する研修等へ代わる代わる参加し、ミーティングで研修内容を発表して職員全員で共有している。なお、参加費は会社で負担して支援している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、市内のグループホームや小規模多機能型居宅介護施設の見学等により交流して意見交換や情報交換を行い、職員にも伝えてサービスの質の向上に努めている。今後、職員の交流についても考えているところである。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に、本人、家族の意向を聞いたり、入院中の方にも外出許可を得て必ず見学や日中の体験をしてもらい、ホームの設備や雰囲気を理解した上で納得して入居してもらっている。入居後も職員は利用者に寄り添う姿勢で徐々に馴染める工夫をしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>掃除、食事の準備や片付け、鑑賞魚の世話など利用者の希望や得意なことを職員と一緒にやって楽しんでいる。利用者から昔の食生活や物を大切にすることなどを教えてもらい、日々の暮らしの中に活かしている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居前のアセスメントや入居後の観察、会話の中から利用者の思いや意向の把握に努め、職員が気付いたことは日誌や連絡ノートに記入して共有し、そのつど検討しながら実践している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>計画作成者は、利用者、家族の思いや意向を聞いたり、観察によるアセスメントと職員が日常の気付きを記入した日誌や連絡ノートからの情報により担当者会議を開催し、検討した上で介護計画を作成している。作成した介護計画は家族に提示している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>変化のあった時は随時見直し、6か月から12か月の要介護認定期間が終わる段階で定期的にアセスメントからやり直して見直し、新たに介護計画を作成している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	定期受診は家族が行うこととしているが、家族が都合の悪い時や医師との連絡、連携が必要な時には職員が付き添っている。個別の買い物や個人的外出時の駅への送迎など柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者全員が入居前の主治医への受診を継続している。緊急時や夜間は、かかりつけ医になっていない場合でも協力病院で対応できる体制があり、訪問歯科も利用できる。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の希望により、継続的な医療行為がない場合は重度化及び終末期の介護について相談しながら実施することを入居時に説明している。同会社系列のグループホームでは3事例の終末介護を実施しており、管理者は当ホーム開設前に勤務していた経験から、職員と前向きにできることとできないことについて話し合っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄や食事時は周囲に気付かれないようにさりげない声かけや介助を行い、本人を傷つけない会話に努めている。また、面会簿はカードにして他の人の目に触れないようにし、記録等の個人情報は事務所の鍵のかかる戸棚に保管されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課はあるが、体調や天候により、利用者の希望にそって夏の早朝散歩や天気の悪い日の過ごし方などを決め、一人ひとりのペースで穏やかに過ごせるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は、野菜の下準備やテーブル拭き、食事の後片付けや食器拭きなど力量や希望により職員と一緒に、食事も職員と共に談笑しながら楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は木曜日と日曜日の午後の時間帯と決めているが、夏のシャワー浴や体調により足浴や清拭を随時実施している。現在より利用者が増えれば、入浴日を2日増やす予定なので、より柔軟に入浴を楽しんでもらえるようにしたい意向である。また、入浴剤を使用することで気分転換を図る工夫もされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や得意とすることを把握し、一人ひとりの力が発揮できるように支援している。熱帯魚の養殖をしていた方が鑑賞魚の世話をしたり、掃除好きな方や裁縫の得意な方は刺し子をしたり、パソコン、はり絵、紙細工などを楽しんで、それぞれが生き生きと過ごしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩に行くほか、初詣や四季折々の花見、買い物、外食に出かけたり、地域のコスモス祭りや小学校の運動会を見に行くなど、外出の機会を多く持つように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は利用者が自由に生活できるように支援し、鍵をかけないことを当たり前のこととして受け止めており、夜勤者だけになる20時30分までは施錠していない。建物内も広く開放的である。外に出る頻度が多い方については職員から見えやすい居室にして見守り、外へ出た際はさりげなくついて行く対応をしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地震マニュアルが作成されており、避難経路を利用者に説明したり、非常災害時の連絡網に近隣の人を入れて協力を得ているが、避難訓練が実施されていない。		定期的に日中及び夜間を想定した消防署による避難誘導や消火器の使い方などの訓練を受け、非常災害時に備え迅速、適切に対応できる体制づくりが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士のいる食材業者から一日の栄養摂取量や作り方が記入された献立表が送られ、職員が調理して栄養バランスの良い食事を提供している。食事、水分摂取量は記録して把握し、嚥下能力により刻み方を工夫したり粥食で対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は広いガラス戸で入りやすく、廊下も広い。リビングからは広いガラス戸越しに四季を楽しめる畑に面しており、開放的で明るく、思い思いに過ごせるソファークーナーもある。台所や浴室も家庭的である。リビングのテーブルの上で魚を飼ったり、利用者の季節の貼り絵や紙細工が飾られ、楽しく過ごせる工夫がされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドとエアコン、防災カーテン以外は、全て利用者の持ち込みとなっている。テレビやタンス、テーブルや椅子、仏壇、パソコンなどが個性的に置かれ、好みにより家族の写真や作品などを飾り、安心して過ごせる居場所となっている。		